

I 富山大学第二回サステナビリティ学国際コンファレンス開催

サステナビリティ学を先導する著名研究者、実務家、若手研究者が富山に集まり、富山大学主催第二回サステナビリティ学国際コンファレンス Global Innovation Strategies for Addressing Future Challenges with Sustainable and Collaborative Action が 2025 年 2 月 26-27 日に開催されました。池田真行副学長の開会の辞に続き、午前中のセッションでは、ストックホルム大学 Thomas Elmqvist 教授による基調講演が行われ、気候変動のもとの平和への道筋について自然に基づく解決策 (NbS) があることを事例とともに紹介しました。また、東京大学福士謙介教授は、人新世における持続可能な水資源管理戦略について話題提供をしていただきました。



写真) コンファレンスの様子

26 日午後から 27 日にかけて、1) Climate Change Mitigation and Adaptation, 2) Sustainable agriculture, Resource Management, and Food Systems, 3) Young Researcher Forum, 4) Biodiversity Conservation and Ecosystem Services といった 4 つのセッションが用意され、GRASS メンバーとともに、ポカラ大学 Binaya Kumar Mishra 教授、インド工科大学 Subir Sen 教授、ジャハングルナガル大学 MD Shahedur Rashid 教授、東北大学 Cheryl Lewis Ames 教授、同大学 Alyne Elizabeth Delaney 准教授、韓国海洋研究所 Miju Kim 博士、同研究所 Ji Yoon Kim 博士、国連大学高等研究所 Martiwi Dia Setiawati 博士、同研究所 Pu Jian 博士、東京大学 Chethika Gunasari 博士など国際的に活躍する研究者が研究発表を行いました。また、本学持続可能社会創成学環の院生も研究発表を行い、彼らが世界の研究者たちと研究に関するアイデアを分かち合い、それによって彼らが成長する機会を提供できたのではないかと私たちは考えています。この国際コンファレンスの開催に向けた企画やその実施では、Geetha Mohan 教授がイニシアティブを発揮しました。

II 環日本海学術ネットワーク特定研究支援事業シンポジウム開催

日本海学推進機構における日本海学術ネットワーク特定テーマ研究支援事業においてシンポジウム「沿岸地域

における人の暮らしと生態系：里海の保全と持続可能性」を富山県民会館において 2024 年 12 月 12 日に開催しました。池畑義人教授（日本文理大学）、山守巧氏（NPO 水辺に遊ぶ会事務局長）、和田太一氏（NPO 法人 南港ウェットランドグループ理事）を講演者としてお招きし、最後に GRASS の Chakraborty Shamik 准教授が研究成果報告を行いました。

本シンポジウムでは浅い河口域や干潟などの生態系に関係する里海生態系の保全と持続可能な利用に関する問題が議論されました。浅い河口域や干潟の里海環境では、開発や持続不可能な生物多様性の利用などによる脆弱性が増えつつあり、複数の生態系サービスの劣化が人間の福利に負の影響を与える可能性が高いと考えられています。そこで、このシンポジウムでは、生態系と人間社会の相互作用を理解することにより、沿岸地域の脆弱性を減らし、回復力を強化することについて各専門家達のフィールドワークや保全活動の経験をもとに人々の暮らしと生態系をつなぐあり方について議論されました。また、本シンポジウムでは、社会的実践を行う市民組織である NPO と高等教育機関である大学とが力を合わせて協力していくことの重要性が提言されました。本シンポジウム開催では、Chakraborty Shamik 准教授がイニシアティブを発揮しました。



写真) シンポジウムの様子

III 北東アジア Future Leadership Program 学生プレゼンテーションコンテスト

2025 年 1 月 1 日に新潟県民会館小ホールで開催された新潟県・北東アジア学会主催「北東アジア Future Leadership Program 学生プレゼンテーションコンテスト」において GRASS の堀江典生教授が指導する経済学部経営学科企業経営コース 3 年生の北村寧々さんが優秀賞を受賞しました。このコンテストは、北東アジア地域の平和的発展を担う次世代オピニオン・リーダーとなることが期待される大学生および大学院生を発掘・育成することを目的として開催されています。北村寧々さんは、「北東アジアにおけるセルフメディケーションの可能性：EU からの学びと地域への応用」というタイトルでの発表で受賞しました。

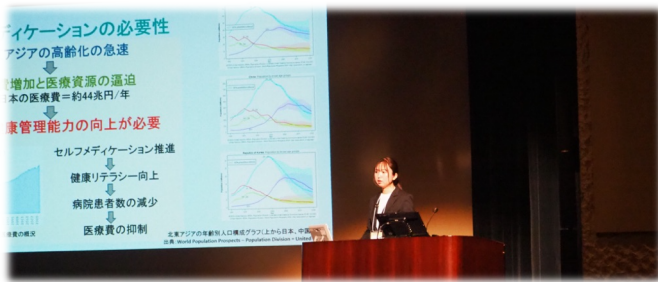


写真) 北村さんの発表の様子

IV さよならじゃなくてまたね

2020年3月に富山へ引っ越してから、ちょうど5年が経ちました。この5年間、私はセンターとともにさまざまな変化を経験し、最初は極東地域研究センターの特命助教として、その後はサステナビリティ国際研究センターの研究者として研究生活を送ってきました。4月からは信州大学へ異動することになりましたが、この場を借りてセンターの皆様や研究費の事務作業をサポートしてくださった研究振興課、契約チームの皆様に感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

「五年目に答えにたどりつく」というインスタ名言を聞いたことがあります。研究者として5年目を迎えた今、結局「学問に王道なし」にしかたどりつきませんでした。振り返ってみると、触れたことのなかった鉄鋼産業から始まり、現在では2回目のJSPS 科研費若手研究の採択まで、たくさん学ぶことができました。書籍の編集や研究会などの企画・実行、外部資金の獲得・管理、そして共同研究に取り組むことが経験できたおかげで、現在の研究業績リストは2020年頃と比べてずいぶん長



くなりました。研究活動に加え、着任初年度からStataやRによるデータ分析や環境経済学の講義を担当させていただきました。また、大学院持続可能社会創成学環のバイリンガル授業を担当する機会もいただき、貴重な教育経験を積むことができました。今後もセンターの先生方や富山大学の自然科学系の先生方と共同研究プロジェクトを立ち上げるとともに、新しいキャリアパスで研究という修行を続けていきます。

一方で、確かにたどりついた答えは、異文化・異分野交流会のようなランチタイムやお茶の時間、アレルギーや引越し相談会といった場にありました。こうした富山での何気ない日常が私の研究生活を支えてくださいました。これまで想像以上に自由で温かい仕事環境に恵まれたことで、自分になりたい研究者の姿が少しずつ明確に

なってきました。センターで築いてきた絆と経験を今後の研究生活にも生かしていけると信じています。

和田直也先生をはじめ、センターの皆様には心から感謝感謝です。この5年間、本当に大変お世話になりました。どうもありがとうございました。しかし、何よりもお伝えしたいのは「さよなら」ではなく、「またね」という言葉です。今後は別の形でセンターの皆様とつながり、GRASSのプロジェクトにも貢献したいと思います。その際には、ぜひ「楊さん、おかえり」と迎えていただけると嬉しいです。(楊潔)

GRASSからも一言。英語、中国語、関西弁を駆使してGRASSの活動をサポートし、5年間で素晴らしい業績をあげ、研究者として一段と成長したYangさんはGRASSの欠かせないメンバーです。そのひまわりのような笑顔がGRASSオフィスを明るくしてくれていました。答辞です。いつでも帰ってらっしゃい。そして、これからもGRASSをどうぞよろしく。(GRASS)



V 持続可能社会創成学環とGRASSの研究成果

GRASSの和田直也教授とGeetha Mohan教授を共著者とするMuhammad Habibullah Galih Tri Aji, Jing Zhang, Naoya Wada, Jian Pu, Kensuke Fukushima and Geetha Mohan. Safeguarding South-East Asia's Marine Ecosystems from Ocean Acidification Threat, *UNU-IAS Policy Brief series*, No. 50が発行されました。筆頭著者のAjiさんは、本学大学院持続可能社会創成学環の修士院生です。GRASSの活動が本学持続可能社会創成学環の教育に貢献し、それによってAjiさんが国際的な場で活躍する機会を得られたことを心から祝福したいと思います。

GRASS NEWS

【New article】

Aji, M. H. G. T., Zhang, J., Wada, N., Pu, J., Fukushima, K., and Mohan, G.. (2025) Safeguarding South-East Asia's Marine Ecosystems from Ocean Acidification Threat, *UNU-IAS Policy Brief series*, No. 50. <https://doi.org/10.53326/YWMH3810>
Nathawat, R., Gupta, S. K., Kanga, S., Singh, S. K., Chakraborty, S., Marazi, A., Sajan, B., Abouleish, M. Y., Meraj, G., Ali, T., & Kumar, P. (2025). Urban Green Infrastructure Planning in Jaipur, India: A GIS-Based Suitability Model for Semi-Arid Cities. *Sustainability*, 17(6), 2420. <https://doi.org/10.3390/su17062420>

堀江典生 (2024) 「ロシアの移民との遠い共存」羽場久美子・中西優美子・田中素香編『EU百科事典』丸善出版, pp. 344-345.



〒930-8555 富山県富山市五福3190
研究推進機構 サステナビリティ国際研究センター



<http://www3.u-toyama.ac.jp/grass>